

【学習プログラム開発の基礎Ⅲ】

「学習プログラムのリデザイン」

目標：学習プログラム開発のポイントや改善（リデザイン）の手法について理解し，相互評価に基づいた学習プログラムの改善ができるようになる。

ぼれっとひろしま

広島県立生涯学習センター

- 1 学習プログラム開発のポイント
- 2 学習プログラムの相互評価
- 3 学習プログラムの改善
(リデザイン)

1 学習プログラム開発のポイント

学習プログラム開発のポイント

点検シート

学習プログラム開発のポイント（点検シート）

氏名

チェックポイント		評価	A	B	C	D	E	F	G	H	I
目的と (地域課題解決の方向性) 学習目標化	1	地域課題に応える目的・目標になっているか？									
	2	学習者を主体にした具体的でわかりやすい言葉で目標が示されているか？									
学習活動の 計画	3	対象者の範囲や人数が適切に設定されているか？									
	4	学習者にとって魅力的な内容になっているか？									
	5	プログラムの順序やつながりは適切か？									
	6	過去の学習活動の成果や地域の人材などを活用する工夫がなされているか？									
	7	会場や場所、回数や日程、経費や参加費は適切に設定されているか？									
	8	プログラム名は、人を惹き付けて、内容がわかるものであるか？									
学習成果の 評価・活用	9	目標にあった評価方法が選択されているか？									
	10	参加者の振り返りを促す工夫がされているか？									
	11	ネットワークづくりの視点がプログラムにあるか？									
	12	学習成果を活用する機会や、次の活動へとつなげる工夫がされているか？									

1 学習目的

(例) 高齢者が、地域への関心や理解を高めるとともに、地域への愛着を深め、生きがいをもって地域で活躍できるきっかけづくりを図る。

1 地域課題に応える「目的」「目標」になっているか？

(地域課題解決の方向性を示す) ※理念的なものでよい

どのような課題を、どのような状態にするのか？

地域課題を

こうなってほしいという
理想的な状態を考えてみる

2 学習目標

1 地域課題に応える「目的」「**目標**」になっているか？

ア 知らないことを知るようになること 知識

イ できないことができるようになること 技能

ウ **意識を変えること** 意識

ウ意識を必ず
1つは入れる。

★学習目標は2つ以上設定

★生涯学習・社会教育の場合は、**ウ意識が重要**

2 学習者を主体にした具体的でわかりやすい言葉で目標が示されているか？

「誰が」（学習者）「何について」（学習内容）、「どのように」（学習方法）学習するのかを明確に。

4 学習者にとって魅力的な内容になっているか？

3 プログラム名

8 プログラム名は、人を惹き付けて、内容が分かるものであるか？

短い言葉で、どんなことをするのか分かるものにする。

4 対象・定員

3 対象者の範囲や人数が、適切に設定されているか？

5 参加費

 会場や場所，回数や日程，経費や参加費は適切に設定されているか？

あわせて，参加者の準備物，主催者の準備物も明確にしておく。

6 事前に必要な知識や準備物

7 留意点

8 学習プログラムの展開 その1

回・日程	学習のテーマ	各回の学習目標(◎) 学習内容(・)	学習支援者	学習場所	評価 (方法)



7 会場や場所, 回数や日程, 経費や参加費は
適切に設定されているか?

8 学習プログラムの展開 その2

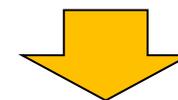
回・日程	学習のテーマ	各回の学習目標(◎) 学習内容(・)	学習支援者	学習場所	評価 (方法)



- 4 学習者にとって魅力的な内容になっているか？
- 5 プログラムの順序やつながりは適切か？
各回の学習活動に連続性をもたせ、起承転結を意識する。
- 11 ネットワークづくりの視点がプログラムにあるか？
参加者間の相互交流、相互作用を促す工夫をする。
- 12 学習成果を活用する機会や、次の活動へとつなげる工夫がされているか？
活動の継続と発展、学びが広がる（周囲の人へ、生活の中へ）工夫をする。

8 学習プログラムの展開 その3

回・日程	学習のテーマ	各回の学習目標(◎) 学習内容(・)	学習支援者	学習場所	評価 (方法)



- 6 過去の学習活動の成果や地域の人材などを活用する工夫がなされているか？
- 7 会場や場所, 回数や日程, 経費や参加費は適切に設定されているか？
- 9 目標にあった評価方法が選択されているか？
- 10 参加者の振り返りを促す工夫がされているか？

参加者自身による学習成果の確認を大切にする。

2 学習プログラムの相互評価

○作成した学習プログラムを複数の視点でチェックし、学習プログラムの内容を相互評価する。

(例) 1グループ4名

準備物

- ・作成した学習プログラム (シートB)
- ・付箋 (ピンク・水色) ・バインダー (点検シート)
- ・筆記用具

学習プログラムの相互評価の進め方

① 学習プログラムの説明

② 付箋紙への記入

参考になったこと
(よかったころ)

(ピンク色の付箋紙)

改善案

リデザインにつながる大事な
ポイントになります。

(青色の付箋紙)

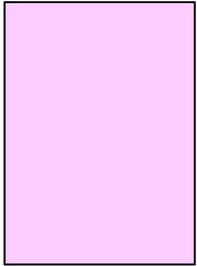
※必ず双方（ピンク・青）を一枚以上書く。

③ 付箋を貼りながら，意見交流

この一連の流れを全員分行います。

学習プログラムの相互評価の進め方

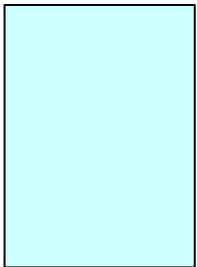
付箋紙への記入の際の留意点



★ピンク色の付箋紙

いいネ！

○参考になったこと（よかったところ）



★青色の付箋紙

私なら
こうするかも！

○（建設的な）改善案

○こうすればもっとよくなるかもという
アイデア等

※改善案を必ずひとつは考えましょう！

×批判のみ禁止 建設的な意見を！

×「ここはよくない」 ×「ここができていない」

3 学習プログラムの改善 (リデザイン)

「学習プログラム」修正・改善案の記入例

○修正・改善案を**赤ペン**で記入

3 プログラム名

わくわく~~タッキング~~教室 **わくわく男性料理教室**

楽しそうな
プログラム名

対象をもっと
わかりやすく

4 対象・定員

~~30名~~ **男性20名（家族やお子様の同伴可）**

家族での参加も
可にしては？

5 参加費（受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお、算出の根拠も明確にする。）

500円（食材：400円，飲み物：100円）**※参加者一人当たり**

参考文献・資料

- (1) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
『社会教育計画策定ハンドブック 計画と評価の実際』
(平成23年)
- (2) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
『生涯学習支援論ハンドブック』 (令和2年)